

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2009.11
【第11号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

- 1.シンポジウム ～たまゆらの悲劇を繰り返さない～「都内・各地域に『支援付き住宅』を」を終えて
- 2.ホームレス支援全国ネットワーク研修報告
- 3.ひろば祭り参加報告
- 4.ふるさと晃荘カラオケ大会
- 5.越年冬祭りのご案内

1.シンポジウム ～たまゆらの悲劇を繰り返さない～「都内・各地域に『支援付き住宅』を」を終えて

10月12日にすみだ生涯学習センター「ユートリア」において支援付き住宅の制度化をテーマにシンポジウムを開催しました。当日は197名のご来場があり、皆さん熱心にメモを取られたり、時には質問を展開されたりととても注目されておられる印象を強く持ちました。

まず基調講演として支援付き住宅研究会委員長の山岡氏より、「支援付き住宅の普及に向けて」と題して都内外の宿泊所・無届施設の実態、ネットワークの必要性など基本コンセプトを交えて講演いただきました。その中で山岡氏は、支援付き住宅の制度化には新しい制度が必要なわけではなく、ネットワークの体系化と普及の壁になっているものを取り除いていくことが必要であると強調されていました。

続いてケアセンターやわらぎ代表理事の石川氏、東京都健康長寿医療センター自立促進と介護予防研究チーム粟田氏、すまい・まちづくり支援機構代表理事の水田によるパネルディスカッションを行いました。石川氏はこれまで培ってきた経験を踏まえて、支援付き住宅の普及に向けてはコーディネートする側もプロ化しなければ普及は困難を極めるだろうとのご意見を述べられていました。粟田氏は認知症のターミナルケアと支援付き住宅の関係性について、水田からはふるさとの会での認知症利用者の事例を用いて、支援付き住宅の普及には24時間対応のサポートセンター設置が必要であり、地域の社会資源を用いて切れ目の無いサポートをする必要がある。それを実行することにより支援をプロ化して対価を求めていかなければいけないと強調されました。

この度のシンポジウムを傍聴して感じたことですが、現在の高齢者問題は、療養病床縮小、介護保険施設の不足、要介護高齢者の増加など大変複雑な問題を抱えており、早急にも支援付き住宅のような住宅整備が必要であります。何の法整備もない箱物の乱発は大変危険であるのではないのでしょうか。そのためにきちんとして人的資源の適正配置と確保、施設のコンセプト、地域の理解を得る等の議論を慎重に重ねていく必要があるのではないかと思います。

今後のふるさとの会の事業展開を考えると、これまでのように利用者の中で温かく包まれる支援(ソーシャルインクルージョン)を継続しながらも、支援付き住宅の普及と並行する形で実現していくことが強く求められると思います。ふるさとの会の真価が問われるのはこれからではないのでしょうか。ご参加いただいた皆様またご支援いただいている皆様には温かく、時には厳しく見守っていただくと同時に今後もご支援、ご教授いただきたいと思います。(佐藤 誠)



パネルディスカッションで支援付き住宅の制度化を訴える



参加者の中から質問が飛び交い、白熱した議論が展開しました

2.ホームレス支援全国ネットワーク研修報告

10月9日、10日の2日間に渡り、千葉県市川市でホームレス支援全国ネットワークの研修会と臨時総会が開催されました。この「全国ネット」は2007年設立以来、任意団体として活動をしていましたが、来年初めにはNPO法人として認証を受ける予定です。全国のホームレス支援を行っている諸団体の、それぞれの地域における活動がより充実し、より円滑に行われるための相互協力の仕組みです。

今回取材させて頂いた10月9日の研修会は「再路上化させない居宅後の継続支援・ケアの必要性」をテーマとして、居住支援に関し、経済学や社会的企業論など多角的な観点からの講演でした。ふるさとの会からは理事の滝脇が講演を行い、現状の分析から居住セーフティーネットの必要性を訴えると共に、高齢の生活困窮者が在宅で安心して生活することができる、また終の棲家にもなり得る「支援付き住宅」のモデル説明がありました。今回の研究会を通して、印象に残ったのは居住支援におけるNPOの役割です。住宅分野と福祉分野をつなぐ部分を担い、将来を見据え、新たな領域に先駆的に取り組み続けることが必要です。新しい事業を始めるのは大きな苦勞を伴いますが、ふるさとの会が日々実践しているこれらの活動は必要なものであり、全国規模で見ても高く評価されていることが良く分かりました。

(館野 毅)



3.ひろば祭り参加報告

去る11月3日、文化の日恒例の「第25回みんなのひろば祭り」に参加してきました。ひろば祭りでは、ふるさとの会が事務局をつとめさせていただいております。

前日の雨からか当日の天気が心配されてものの、当日の天気は若干肌寒さはあったものの、青空は晴れ秋らしい天気であったため、朝から地域住民をはじめ多くの来場者が訪れました。

今年で17回目の参加となるふるさとの会は出店で「もつ煮」と「ビール」を販売することになり、そこに敬老室職員、宿泊所職員、ボランティア 計8人が朝から準備に携わりましたふるさとの会の恒例の「もつ煮こみ」は若干肌寒い天気と当日参加したスタッフの熱意もあってか、13:00頃には完売し、ビールも15:00頃には完売することが出来ました。

そして祭りの合間に取材も兼ねて全体を散策していると、障害者団体・作業所・グループホーム・訪問看護ステーションなど様々な団体が出店やバザー、相談室などを開いており、またステージ上では障害者団体を初めとした多くの団体が歌唱会や楽器演奏がありました。さらには今注目の小学生演歌歌手「さくらまや」ちゃんが急きょ舞台上に上がり、会場の熱気も更に上がっていきました。

当日会場には敬老室や宿泊所からも多くの利用者が参加されており、祭りを満喫している姿など、普段とは違った一面を除くことができ、そんな姿に「また来年も頑張ろう！」と心に誓うようになりました。そしてふるさとの会が築いてきた地域との関係性、役割が大きいものであることを改めて実感することができるなど、色々なことを知ることでとても充実した祭りとなりました。

(崔曙哲)



全体司会をするボランティアサークルふるさとの会代表の遠藤さん



「行列の出来るモツ煮込み屋」BY ふるさとの会

4.ふるさと晃荘カラオケ大会

去る10月14日、ふるさと晃荘のカラオケ大会を開催しました。ふるさとの会の各宿泊所でも定期的にカラオケ等のイベントが行われていますが、今年の5月に開設されたばかりのふるさと晃荘では今回が初めてのイベントです。午後2時、会場となった「地域生活支援センターすみだ」には、ボランティア講師の参加もあって、初めは照れて歌えない利用者もすぐに皆楽しそうに歌い、用意されてあるお菓子や飲み物をとりながら良い雰囲気の会となっていました。予定の終了時間である午後5時を少し超えてしまったほど、利用者のみなさんはとても楽しまれていました。その後、夕食会が行われました。「すごくおいしいね。」と利用者同士で楽しく話し合い、午後6時にイベントは終了しました。晃荘に帰った時も、「すごく楽しかったよ。またやってね。」と言って下さいました。カラオケ大会の余韻が残ったのか、その夜は利用者同士で歌の話をしており、参加しなかった利用者も「そんなに楽しかったんなら、俺も参加すればよかったな。」とおっしゃっていたようで、晃荘全体が非常に良い雰囲気であったと、夜勤職員からの報告がありました。

ふるさと晃荘は開設してまだ半年程度しか経っておらず、到らない部分もまだあるかもしれませんが、まだ見えていない利用者のニーズや施設の設備を少しずつ整えていき、利用者が毎日をより過ごしやすい施設にするために日々改善していきたいと、ふるさと晃荘の施設職員として思いました。
(望月拓馬)



5.越年冬祭りのご案内

2009~2010 新宿・山谷共同開催
丑越年冬祭り
生活・住宅・仕事の相談会も同時開催

いつもお世話になっております。ふるさとの会です！

ふるさとの会では、行政の窓口が閉まる年末年始、12月29日～1月3日までの6日間、路上生活者や派遣切りにあつた方等を対象に炊き出しや物資の提供を行っており、配食現場の隅田川沿いには多い日で300名を超える列ができ、400～500食、合計で3000食以上を提供しています。



昨年末の「派遣村」に顕著なように、派遣切りなど不安な雇用情勢の下で安宿を求めて山谷に人が流れ、新たな職場を求める人、心身の状況から生活保護を必要とする人等が支援を求めています。行政も生活困窮者の増加に対応して、「第2のセーフティネット」として住宅手当や生活資金の貸付等の相談窓口を用意していますが、制度の申請から申請後の生活まで継続的な支援の担い手が不在のなかで十分な機能を果たしていません。

今年の冬祭りでは、例年の炊き出しに加えて、路上生活者・生活にお困りの方を対象に生活、住まい、仕事に関する相談も同時に行います。

また、今年の冬祭りは新宿で支援活動を行う「新宿連絡会」との合同開催とし、山谷・隅田川に留まらず、より多くの方の支援につなげたいと考えております。

この越年冬祭りに、お力を貸して下さるボランティアの方を大募集いたします！なお、この事業は純粋なボランティアのカンパで運営されており、皆様からの支えが命です。

1人でも多くの方を支援するため、人材面はもちろん、資金面でのご協力、また食材や衣類などの物資カンパなど大変ありがたいです。ご協力のほど何卒お願いします。

<活動期間>

12月29日～1月3日 午前8時30分～午後5時
 ※12月28日13時～16時には隅田川沿いでチラシ配り
 ※1月4日以降は、ふるさとの会の地域生活支援センターにて相談にあたります。あわせてご参加・ご協力をお願いします。
 ※新宿は新宿中央公園にて12月27日～1月3日に開催

<支援活動>

* あたたかい食事づくり・配食
 * 路上生活者や生活にお困りの方からの相談（生活・住まい・仕事）
 * 都の越冬宿泊護施設への訪問・相談・演芸会の開催

<カンパ物資送付先>

荒川区南千住3-3-9
 (財)城北労働福祉センター分館敬老室 町田 宛
 <カンパ振込み先>
 ○郵便振替 00260-5-63218 ふるさとの会
 ○ゆうちょ銀行(記号)10100(番号)51256881(ゆうちょ銀行からのお振込み)
 (店名)〇一八(番号)5125688(他金融機関からのお振込み)
 (口座名義人)特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会
 ○オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」(ふるさとの会HPにリンク有)
<http://www.giveone.net/cp/pg/CtrlPage.aspx?ctr=nm&nmk=10009>



<連絡先>

ボランティアサークルふるさとの会/NPO法人ふるさとの会(担当:町田)
 TEL:03-3801-0377FAX:03-3801-0881
 e-mail:boranteahurusato@gmail.com
 ふるさとの会HP:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

ボランティア説明会を開催します！

日時:12月23日(水)15:00～17:00
 場所:三富製作所(台東区日本堤2-37-1)
 内容:山谷・新宿でのボランティア活動内容
 路上生活者をめぐる状況、支援に関する制度の説明など

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
 〒111-0031東京都台東区千束4-39-6
 TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950
 E-mail:hurusato@d5.dion.ne.jp
 HTML:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>